



里見八犬傳 拾二編 卷廿二

~13
709
70



門遠 13
 號 709
 卷 70



明治 年 月 日 購 未

南總里見八犬傳第九輯卷之二十一

東都 曲亭主人編次

第一百十四回 金碗後無一更小後あり 姥雪望を失て反く望を遂ぐ

そのとにト、こゝにゆゑ、ちやいさ、おのれをとりけり、金碗の、後とて、金碗氏の、後とて、登時、義美、主の、大法師、の、ち、向て、和尚、具の、所、を、我、這、八箇、の、天、氏、と、て、和、僧、の、義、子、小、做、さ、ん、が、與、小、親、兵、衛、と、十、一、郎、を、則、京、師、遣、七、室、面、殿、告、告、票、一、朝、廷、の、勅、免、を、請、ま、り、て、他、們、が、姓、氏、を、改、ん、と、欲、ま、し、右、便、宜、折、れ、り、和、僧、も、俱、小、上、洛、と、功、課、を、奏、し、て、請、ま、り、て、紫、衣、最、上、の、僧、官、ら、ら、と、も、ゆ、ぐ、は、わ、さ、る、べ、し、財、用、ハ、我、安、房、殿、に、請、て、宜、し、計、文、同、意、を、ら、が、仔、細、不、及、る、逆、放、の、准、備、を、い、は、せ、甚、麼、を、必、と、同、め、ハ、大、の、邊、く、席、を、避、て、徐、々、答、票、を、申、上、り、最、有、る、名、を、忝、に、御、説、で、い、は、さ、不、肖、の、臣、僧、刑、餘、の、身、を、り、て、非、如、寸、功、あり、か、と、八、の、具、足、の、諸、大、士、の、姓、を、改、め、氏、を、更、め、金、碗、氏、を、冒、さ、せ、ハ、陪、王、を、り、糞、土、埋、め、蜀、錦、を、り、敗

八犬傳九輯卷之二十一

文叢堂藏

夜の裏に傲まふひとくもいひは徳意なき恩命を否まふ似て不敬の事免れざるは佛の教の
 塵世に脱れ後を本意とせ言あつてもくはとも臣僧少り一時幸ひ不戒の罪と宥られぬ
 遂に佛の入りしより只報恩の爲め現世に則ち御武運長久來世に先靈正見の念を日夜間斷
 る身を雲水不儘たる十餘年料敷行脚の宿望をなす成就して罪障恩赦の召を心して
 故郷返るを望み足るは猶寸功と賞せられて御香華院の寺職を預り國內の道俗に
 尊信せられんと及て本意の如く京師に詣り官職を請はるは開き那渡世の家宅を度
 世の憂ひの念思始る如く名利を欲せざり孫を思ふは然るに命寺の住職に傲まふ一當日
 より推辭せざるも義烈院殿を御改葬の支急なれば是非及んば姑且御意に隨ふめり寺
 職に久恋の園ありま定まらば世の法師の並に欲き大判の住職に厭ふ況出家に相心か
 らぬ義子と求め何れも畢竟亡父孝吉あり昔の大功の虚くも惜く思召を御仁慈
 るも獨陪臣より者の姓氏の願ひは天聽と驚むは物体より最也かかとも実小

件の如計に出家の本意の如く義成王と位を承りて大を論しぬ
 原来主意違ひぬと咄せり義成王と位を承りて大を論しぬ
 和僧の意見の寂滅をり樂小做と即出家の真面目を以て事をも儒の道
 り論され後を不孝と主従の家徳より九族升天も子孫是より断絶して先祖の
 為不孝と世の人を羨む佛説儒教の方異也佛の極樂淨土と誨え儒の則樂と極
 むと教を佛の所云樂は則寂滅爲樂の美也夜臺成就淨土と儒の所云樂は徳の
 快樂と其の指を所同と又我大皇國の神の教を以て生を喜む世々子孫相續を守ら
 せぬの家をなれば或は不幸にして子孫を絶つ或は亦生憎むあつても言はるは這言をりて
 補ひ養嗣を那家を絶つるも先祖の與不孝の罪を免るべく且その宅を離散して他人
 寓るの意なきは徳を思ふ和僧ありと年來佛法修行の身なり今も八士不
 義父と仰れ義子と稱て世に父を養て云々と論せらるる事ありんか尚せん樹あり

八士之和僧の乾見おせ。金碗氏を冒さるる皆孝吉の名跡也。和僧の上中干渉らば。這設穩
 る。此は欲辟良。那結城の淨西父子の忠孝するも幸あはれ。出家をれ。子孫永く断絶せしめ。亦
 天命多しと。誰を惜く思ひせんや。上中干渉の義と思召せ。那身他領の法師也。且影西僧
 正。做登りる果報あれ。一世あくる福。竭く天道盈る。缺の義也。花美は樹の実る如し。和僧は
 他と同じく。八代氏宿因あり。あともて先父八郎の名跡をさると。和僧の與親族と。と
 とのいふこと。さるべし。又今番大江親兵衛を京師へ使遣。姓の一名のさる。知る
 ごとく。安房上總の東南の二隅也。三方都て大洋を。囊の一箇の口も像く。困ると。成る。不易
 く。找を遠く攻る。難り。その故。関東諸國の風俗。虚実を知る。由り。况京師に。心仁。以末室町
 家。武威衰へ。昔の似せり。由り。人の噂。不傳る。今。光景。甚る。親しく。觀る。亦。あは。る。由り。
 誰。其。是。を。知る。然。今。番。親。兵。衛。を。京。師。使。遣。ある。那。地。の。虚。実。を。目。撃。せ。し。め。且
 年來の兵乱。朝廷の御料。大く。さる。と。關。之。の。守。え。られ。陽。出。則。大。士。の。氏。を。金。碗。氏。做。す。欲

と。奏。請。の。一。を。され。陰。謀。の。件。の。兩。橋。事。と。兼。さ。る。御。内。意。多。し。和。僧。の。い。ま。惜。ば。只。その。心
 は。所。ぞ。り。論。を。せ。お。ん。ず。む。あ。ら。す。り。な。れ。も。四。下。の。忌。人。を。け。れ。明。々。地。告。え。釋。法
 語。以。て。一。族。烏。海。と。名。を。あ。ら。す。下。の。憎。を。示。し。大。法。師。の。感。涙。の。找。む。覺。も。且。恥。て。心
 難。う。ゆ。り。程。側。御。も。八。代。士。照。文。亦。兩。館。の。慈。愛。忠。信。並。て。甘。み。易。く。と。共。侶。の。感。一。費。
 る。り。り。當。下。大。の。謹。て。義。成。王。亦。稟。ま。り。短。才。法。知。自。測。り。か。ら。賢。慮。と。香。を。云。と。論。ま
 づ。一。不。敬。の。罪。萬。死。も。當。る。は。外。口。め。の。論。さ。の。恩。命。感。服。仕。り。臣。僧。愚。不。七。僧。家。の。祇
 律。違。ふ。と。敢。て。况。火。宅。と。脱。れ。身。を。義。兵。と。な。れ。と。恥。し。に。涯。の。老。業。の。か。り。ふ。又。趣。を
 易。さ。せ。八。代。士。を。孝。吉。の。名。迹。申。す。金。碗。氏。冒。さ。る。と。再。度。の。仰。御。慈。愛。ま。ま。枯。骨。及。び
 る。是。何。の。造。化。を。眞。加。餘。の。事。と。天。を。そ。ら。く。感。涙。の。外。に。然。る。金。碗。氏。の。者。一。人。足。り。不。か
 八。士。都。て。同。様。る。亦。御。深。意。と。ま。ま。九。智。叡。精。一。なる。知。亦。室。町。殿。使。の。御。内。意。を
 実。は。ら。ち。驚。れ。お。計。を。は。り。然。り。と。思。ひ。ふ。り。賢。能。を。飲。而。非。直。言。以。傳。る。恥。く。も。身。を。措。ふ

處るは失敬の罪と饒さきと勸解と言兼と稟ありて義成主の然らば之義実屋敷頭にて
 安房殿微如も計ひの故今六采命寺の願の隨意八士の氏を冒すの義父義子の誤り閣
 諸大夫も俱く我を汝們もて金碗氏と冒すを欲するに惟創業の功臣たる八郎孝言
 與の之を抑當國二郡の舊主神餘長挾ひ光弘の曾孫暗愚の本性的軟逆臣定包不殺
 せられて耶家断絶する事不し光弘の洛胤と傳ふる思ふに弘世ありては亦亦延弱多
 病に生涯妻毒するべし故に大師宿因の八大夫と金碗氏不殺を弘世の嗣子ありて
 一世を終るも光弘の名迹の當國不送るは是孝言の素懐也絶之を継ぐ廢れし與さ
 欲し義実の本意を詳に解は神餘金碗の同宗也神餘則和名鈔安房國安房
 郡の御名の條下をを加無乃安萬里と訓し有徳は神餘の當初のありて唱し後
 世かまると略稱し後又字音の便利不儘してをよも喚做ら然金碗の神餘也又金鞠の
 作るあり共神餘の假字を同宗と知るは其の一名迹也一人の世に八士京都課する皆

是同因因果の誰と二人抜出と課するは可憐大士他姓と紹と瑕不疵の心地を
 とりて者の本と思ひて因果の當原有徳は天命多し知れん什麼八士同意多しと問はる
 道師們自餘の大夫も異口同様に皆答稟す既稟上して臣等各所生父母の繼
 將軍大諸侯の如徴はる名利の與他姓を冒す他人の螟蛉を做るべしといひも大師の宿
 世ありて悟るも義子たるも教へて況して是を能く姓の一名とす何て又異議を
 左も右もその命の隨意従ひ多しと亦委言義実主統ひて大法師不宣寺寺主の
 情願障りなく内談に稍救する和僧亦何等の故も僧官の事を好とせば延命寺の住職を
 辭し一切の事をと誣りて大答然釋氏の教へて食を名利の街衢に遠離を勉
 とす八士和漢中無事より僧官の置格式に定め寺領坊料許す寄其の徒の慾心肥
 せしける魔障不達法師の名利の取らるる寂滅の教を守者罕く臣僧愚かく徒の富田
 貴榮達を羨む迹を富山の洞窟に潜めて伏姫の上を菩提を吊るす思ふ事證の身

比障の多、大士們代四郎知られぬ尋ね多、疑ひを解せらるゝも、大士們は、
 當夏五月某の日、富山、姫上、墳墓、詣、折、大法師が七日、斷食、讀經、日夜、勤行、箇
 様々、ふい、給、その、崖、巖、を、報、稟、其、義、実、主、駭、嘆、と、現、達、寺、主、の、忠、誠、を、御、宗、神、佛、解
 厄、の、冥、助、あり、の、以、の、る、を、然、も、今、亟、小、退、院、の、饒、か、ら、る、の、を、甚、麻、と、相、譚、い、ふ、義、成、主
 沈、吟、と、仰、の、ご、三、條、以、來、微、難、な、る、名、僧、を、大、法、師、代、た、る、智、識、中、に、も、覺、め、給、然、り
 とも、寺、主、禪、を、後、住、あり、の、ご、や、と、向、て、大、稟、さ、す、否、の、を、大、師、心、當、に、是、那、結、城、を
 影、西、の、心、術、忠、考、也、當、家、の、舊、縁、に、後、住、せ、ま、思、へ、他、師、家、の、微、小、亦、七、權、僧
 正、の、頭、職、を、愛、惜、せ、ま、さ、る、必、辭、以、て、參、ら、る、那、影、西、と、除、く、外、亦、一
 人、の、ご、年、二、下、の、も、足、さ、れ、只、今、の、借、用、の、此、是、別、人、を、臣、僧、甲、斐、の、石、木、を、指、月、院、に、在
 了、時、念、成、と、喚、做、す、件、の、寺、の、小、僧、へ、他、料、金、は、雪、奈、四、郎、と、淫、婦、名、曳、が、奸、計、の、密、談、を、偷
 聞、を、濱、路、姫、の、御、危、難、と、忠、告、は、り、者、を、當、家、の、功、を、り、の、ご、只、這、椿、事、の、ご、

一を、す、て、三、ご、知、る、敏、才、を、れ、偽、る、且、心、術、老、實、之、然、の、葷、酒、魚、肉、を、嫌、ふ、と、勉、め、ま、中、に、あ、る、自
 然、の、性、で、い、は、る、教、を、善、智、識、の、ご、を、い、は、る、の、ご、比、石、木、脚、力、と、遣、し、七、指、月、院、の、現、住、の、
 件、の、念、成、を、徵、め、り、小、現、住、の、惜、氣、も、中、に、那、身、特、に、於、て、脚、力、と、俱、小、參、り、學、察、亦、在、あ、る、
 之、を、教、育、仕、り、取、今、も、十、餘、苦、學、と、蓋、法、燈、と、紹、ふ、足、る、を、於、秋、の、素、生、と、原、林、の、故、御、上
 總、圍、望、陀、郡、大、成、村、の、浮、浪、人、某、甲、の、獨、子、と、二、親、を、去、り、世、と、去、り、孤、兒、と、ま、り、ふ、さ、せ、る
 親、族、中、に、れ、由、縁、小、就、て、甲、斐、が、赴、於、年、七、の、時、も、秋、指、月、院、の、前、住、の、弟、子、を、り、者、小、を、り、又、その、天
 成、と、念、成、と、の、名、詮、も、以、の、り、也、原、是、御、領、の、民、の、子、を、れ、延、命、寺、の、第、五、小、相、心、く、や、り、む、と、五、十、
 報、稟、と、而、候、つ、ら、ら、奇、也、と、稱、え、の、側、御、着、信、乃、道、師、即、照、本、亦、相、識、件、の、小、僧、念、成、の、
 素、生、と、始、て、解、示、さ、れ、俱、の、奇、耦、と、感、じ、り、登、時、又、義、実、去、り、大、法、師、を、宣、中、に、ゆ、く、が、た、の、念、成、と、
 畢竟、和、僧、の、法、燈、と、紹、ら、る、舊、縁、亦、然、也、他、尚、少、年、を、六、和、僧、今、も、十、年、許、退、院、の、望、斷、ね、勿
 論、暇、を、入、折、富、山、錢、日、籠、る、と、も、開、我、知、る、と、あ、る、は、我、和、僧、の、望、儘、と、義、父、義、子、の、誼、能、な、る、

和僧亦我望儘と今も住職十箇年の勤の果れぬかと仰ふ大願の汗七最も惶然御懇
 命然も厚次御教諭を不情りなると勸解て美伏あつて義成主も控ひて馬を思ひ
 ひり權且と大法師の太志身邊の膝に控ひて君命も金碗氏も冒さず飲ひて云々と舒
 大士們を聞きし所を御道師も思ふと大徳の咱們も宿世の親今生の師表も義子も饒
 されぬ師父と七稱ひぬるを兼容あかといふ大徳は否和殿達の我在俗の親族とを
 思へぬ師父と稱ひぬるは進の辭讓美し京真俗一家の約束俱に執意做事か義実
 主の悦び堪む我退隱の始も政事安房殿に任して助言せられぬ大徳の上りも我外孫の思
 ひあり有敷る心許多く大の席に列り親兵衛十一郎伯を京師へ遣はす伴の使の一椿事異
 目必稲村の家老毎と詮議の上吩咐もあつた今目召し内談の旨も上直るか
 との町寧ろあつたを鮎て暇を賜ひて大並八大夫俱に控ひて京師へ宿野退の義成主
 稲村の城還りてあつたの目召しの下りも伴當常より言ふを騎馬をいそぐかを路近

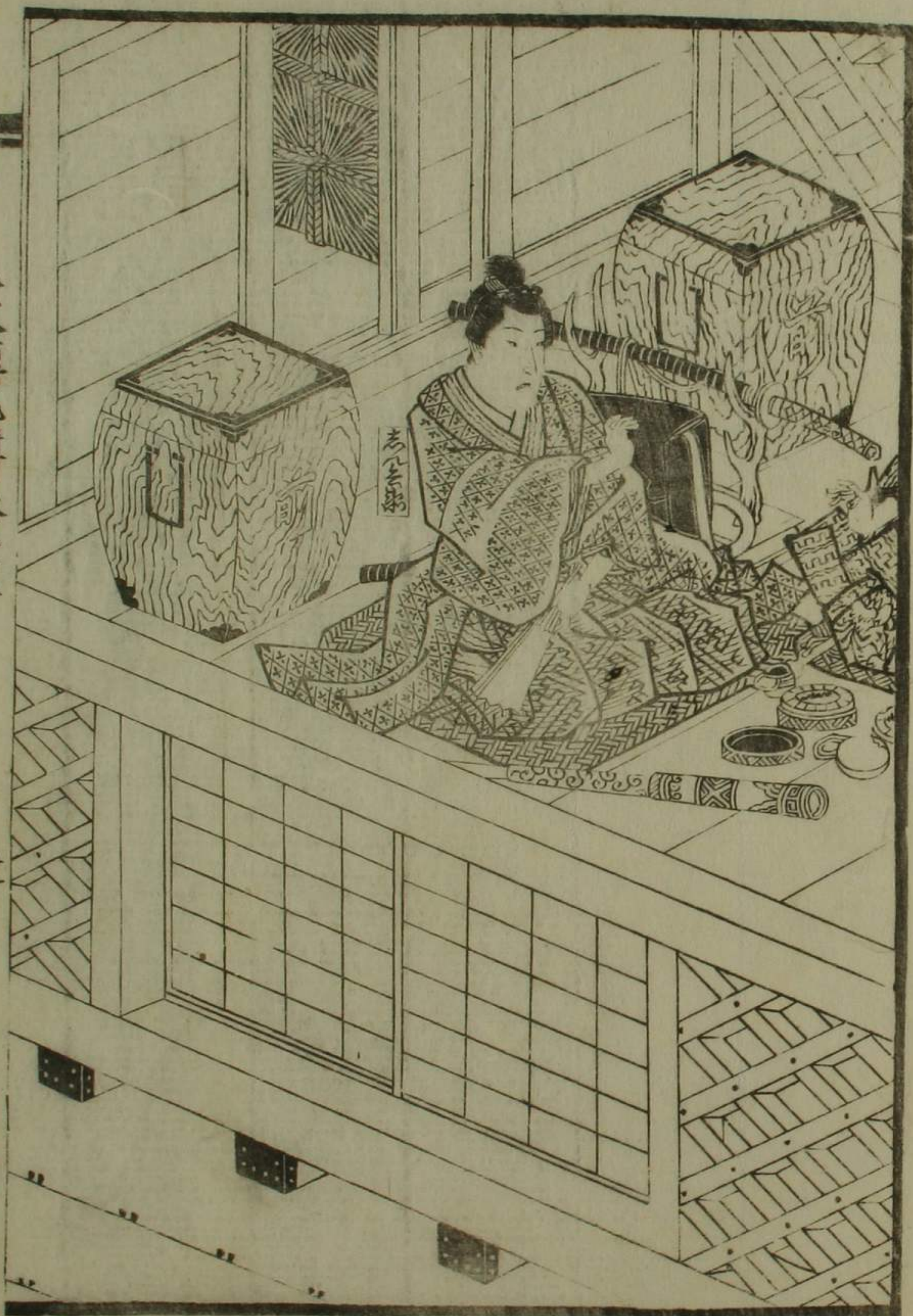
ね日消しての宵暮る歸城のり次の目龍田の是より五七日と経て大江親兵衛仁と蟹
 崎土郎照文を稲村の城へ召し而家老辰相清澄正廳に列坐して今番件の兩人を使て
 京師へ遣はす上直る傳達も當下辰相が云々の二義龍田殿の御内意儘せられ大徳の母の
 氏を齊一改めて皆金碗の做とて室町殿へ請せぬ朝廷並に花營も奉獻の金も
 く齋遣はす今や戦國割据の諸侯各新不用を構えては略不便の事なれば水路を浪
 花不到と輒く京師へ達せし避莫伴當も人の疑ひあるも東西を持て夫役といふも
 五六十名も渡るべし近曾の緑林錦帆動も白晝景旅客を脅と盤纏と奪略する風聲
 進退俱に小心して武勇の負ひに但親兵衛身材既に大人備て智力萬丈も提れ
 ども生年九歳も小僧大事の使相也とて若もあつたを請せ依らせり
 由老侯の御意を館も憑く思召する京師へ参りて管領家も尚その年才を向む一倍
 老十八歳とせよとせよめれ是も亦人の疑ひを避る一術なれば十一郎の故も親兵衛と相

手。上。あ。ま。ち。り。も。い。ち。ち。う。い。あ。ら。う。に。あ。ま。で。い。ね。ん。ち。う。い。ひ。り。と。く。
 副。け。て。傳。ふ。行。む。を。醸。し。て。逆。旅。の。准。備。の。三。見。涯。り。と。ま。り。發。船。と。致。夫。し。と。叮。寧。に。云。渡。さ。る。信。
 て。い。ち。ち。う。い。あ。ら。う。に。あ。ま。で。い。ね。ん。ち。う。い。ひ。り。と。く。と。う。ひ。る。ふ。い。と。あ。ま。で。い。ね。ん。ち。う。い。ひ。り。と。く。
 而。お。の。日。親。兵。衛。と。照。文。の。義。成。主。見。參。上。と。上。都。の。勢。ひ。と。稟。し。ま。り。黃。金。並。時。服。と。賜。り。て。
 且。兩。女。の。禮。を。ひ。ら。る。ち。後。尤。右。と。退。け。て。義。成。お。も。う。仰。示。さ。せ。あ。ら。う。旨。あ。ら。う。親。兵。衛。の。果。て。照。文。
 と。共。侶。の。所。宿。所。退。り。て。七。個。の。義。兄。弟。妙。真。代。四。郎。音。音。們。の。件。の。し。と。告。知。ま。り。代。
 四。郎。望。し。失。い。て。大。江。和。子。の。り。り。も。富。山。以。來。を。折。す。小。可。も。亦。仰。せ。受。て。必。從。ひ。り。今。番。通。り。た。
 京。師。へ。と。友。使。不。達。り。ぬ。ま。の。伴。當。小。可。を。漏。れ。い。甚。麼。を。故。を。諸。君。の。笑。を。お。も。は。せ。望。し。
 遂。さ。を。ぬ。ぬ。と。親。兵。衛。請。い。道。郎。們。告。て。仍。も。欲。ま。れ。も。道。郎。敗。諾。る。を。開。け。亦。要。願。願。
 る。大。江。則。正。使。登。崎。の。副。を。事。足。る。の。と。和。王。交。遣。さ。れ。何。せ。ん。且。這。回。の。友。使。と。老。
 侯。の。御。意。と。り。申。擇。せ。ま。り。二。人。の。あ。れ。我。們。と。も。私。情。と。陳。て。相。争。さ。く。も。わ。り。況。和。主。と。
 い。ぬ。比。夏。の。時。の。退。き。老。と。頭。へ。と。仰。を。承。さ。る。あ。ら。う。然。る。老。人。の。相。志。か。ぬ。名。聞。を。好。
 む。似。る。願。ひ。誰。の。執。接。ぐ。枉。て。思。住。た。と。論。其。親。兵。衛。自。餘。の。天。士。も。共。侶。の。諫。は。

中。阿。叟。の。情。願。所。以。る。は。不。あ。ら。ぬ。と。尚。是。餘。日。あ。ら。う。願。ひ。重。を。便。宜。と。ゆ。え。然。る。緩。や。る。暇。
 る。既。後。日。と。定。め。ら。れ。る。舟。船。と。今。ゆ。争。何。の。艾。這。回。と。且。大。山。の。意。見。不。就。く。と。ま。り。ぬ。れ。と。
 言語。察。片。一。尉。に。代。四。郎。答。せ。眼。と。睜。り。て。老。を。ち。り。ぬ。ぬ。朽。惜。ぬ。ぬ。の。年。齡。の。既。不。七。
 旬。不。遠。く。も。わ。り。做。り。か。筋。力。奔。走。甲。有。れ。た。後。生。連。劣。人。を。開。と。安。閑。と。日。と。弥。れ。反。々。
 病。者。不。る。を。不。使。せ。ぬ。ぬ。と。本。意。を。ぬ。ぬ。と。う。り。吐。け。ぬ。ぬ。大。家。笑。ひ。不。紛。ら。と。更。別。話。不。
 及。び。り。然。れ。姥。雪。代。四。郎。の。當。晚。宿。所。不。還。り。と。心。連。の。不。焦。燥。で。寐。れ。ぬ。隨。不。思。争。我。の。原。是。
 微。賤。の。足。夫。大。山。主。の。舊。僕。多。し。過。分。も。兩。館。の。奴。執。立。不。遇。ま。り。侍。品。數。ま。り。れ。優。小。
 宅。暮。と。養。ひ。ら。る。只。徒。不。坐。し。て。啖。す。這。回。の。御。用。不。達。も。あ。ら。う。位。素。冷。と。と。人。の。い。れ。ぬ。
 番。崎。主。の。直。塚。紀。三。六。と。心。利。の。伴。若。黨。の。大。江。主。の。然。る。伴。當。守。の。仰。不。あ。ら。う。と。も。
 我。那。和。子。の。伴。侍。不。做。り。と。京。師。不。赴。に。萬。一。事。あ。ら。う。折。一。臂。の。帮。助。不。做。り。も。世。伏。姬。神。の。
 神。慮。も。稱。を。我。本。來。の。志。と。致。ま。り。大。山。主。の。隊。不。練。て。軍。陣。不。忠。を。盡。ま。り。大。江。和。子。の。伴。不。

危うん所云孔子小語道て和殿萬事神々多伏姫神の示現也知るる多素も臨
 機応変の才匠上りあられ西館の憑く思召さけを信道を以て取見達る意見の要言に贅言
 多し智者も千慮の一失あり愚者も一得あり小父公の教諭を心占て愆を讓りぬいと示
 志親兵衛も所て小父公並犬飼王の示教の實千金古の有道者人小送る小言ゆてと
 多し其の美ふひの西教共肝胆銘銘とせられしと心なれば信乃も野道節莊も大用各餘
 談と書々俱ふ益と献酬と一霎時別惜り有り程小照文の若黨直塚紀三を以て
 親兵衛を催促して稲村へ参る時分宜と報ふ親兵衛の遠く七大夫告别と給僕の内
 中両三名稲村を従ひ來んと身装ら立せ却照文と共侶の稲村の城へ参り辰相清澄
 面談して兩管領政氏呈書一通並貢献の金子禁裡御所へ一十兩室町殿へ一十兩東山殿
 へ一十兩西管領へ白銀各五百兩の餘其家槐門諸司百寮へ金銀土宜の人情多る徳而當
 城の有司們這件々の上業安排都て日録の援合と三千箇の長韓櫃小敏めて親兵衛の

渡領一は是なり親兵衛照文の夕膳を賜りて當廳の止宿と許さる船明の初刻
 潮候風信共宜なりと船公原生なる伴當支役の下智も從事の上下九十餘名の内
 中親兵衛の伴當究竟の夥兵三名雑色奴隸五名又照文の伴當十名長韓櫃の宰領五名
 支役六十餘名徳而の夜果敢多く明て主僕の早飯果も隨即貢調の長櫃と横須賀
 程遠なる伴當の港只拾をせて親兵衛並照文主僕も推續して船に乗る小田親戸賀九郎逸
 時と舟屋八郎景能の両家老小訴へ免許を経て俱港口まで送り他們は裏小親兵衛の受
 なる恩義我れれとの餘餘瀝田も稲村も私の旅する船を憚りて送る者多り折る
 追風も一船の隨即真帆颺て去る相模灘十數里を安の舟走ら伊豆の下田の歌の舟
 程小親兵衛の夜泊の徒然と慰難て照文と申の囁も多し語次小那田親甘屋も今朝暮
 口まで送り一甚麻を焼雪の昨日も今日も若來他咱們と同船と京師へ多く欲せり
 大山も自餘の義兄弟も多る林平恨も多る詞も託らざら四郎



八代傳九郎卷三十三

十

八代傳九郎



お小あは渡波
のそおの神
の石も志留の
ひくまあられ
小汁程
玄同

八代傳九郎卷三十三

八代傳九郎

小名告けり。突然と船荷の陰より出づ。親兵衛と照文の驚き呆れども、何れと問ひ、
 顔をうち自内れ。代四郎は合笑さる。もろに傷み坐して、刀袷達然も、不訝りある。今番の伴達
 多く欲せ、情願虚くする。か箇様々を小計り。今朝風より船は乗り、艀は居り、後
 守ふゆを、外口と蒙る。軍小可が上にあむ。決くと連累さる。伴ひぬれと請求せしむ。
 且、親兵衛も照文も、這輩鏢る老人の義侠の愛する意と感と、只得望し儘せ。代四郎
 軟び大なるは是より。親兵衛が伴侍と自解して、直塚紀六同様、各よその主仕で、俱
 徒然を慰めけり。話分両頭、の目瀧田の城内、音音曳の軍節門、代四郎が親兵衛の用
 船と港口を送ると、の暗天小舟、あつた。次の目まかた、あつた。只顧疑い訝る。妙真も告て
 うち相譚、妙真も亦思ひ難て、俱七代士は告て意見、問ふ。道節れを、もろに所。原来代四
 郎、那情願と果えと、親兵衛を哄誘て、俱小船はうち乗て、京師へ赴たる。あつた。この
 故箇様々も、如此々々のありけり。と、御高代四郎が所望の一義を道節並は自餘、代士も林を

披露せし。あつた。代四郎宿望違る方、小計りて、那船はうち乗りて、親兵衛と共、京師へ
 赴た。と、思ふ。棟を、詳に解して、一個の奴隷、吩咐て、件の港口遣して、船公許尋問せし。
 果してその実、あつた。七代士商量さる。代四郎の身比、兩個の孫兒、後見して、退りて、老と頭へ
 御誼を兼、あつた。者也、非如、羊年三箇月、隠と、京師へ上ると、刀口を、あつた。然れども、那儘
 うち捨閣、後暗に怠慢の罪免る。先老侯、あつた。あつた。下知、依及、れを、隨即、東峯、前
 三と、小水門、目小、の、告て、情地、小旨、伺ひ、小義、実、の、美を、あつた。うち、點頭、然り、宣ふ。現代、四
 郎、富山、六、松、親、兵、衛、守、冊、に、恩、義、深、者、れ、他、が、帮、助、する、多、欲、せ、老人、の、一、筋、を、
 義、侠、輒、忠、然、も、あつた。あつた。許、可、る、京、師、使、の、伴、達、は、宿、野、在、る、と、披、露、せ、し、違、法、の、罪、
 争、何、せん、好、む、と、せん、秘、の、我、吩、咐、て、遣、ら、ち、と、後、難、さ、る、下、稲、村、へ、目、参、り、て、安、房、殿、箇
 様々々と、予、口、状、を、あつた。あつた。家、老、毎、も、あつた。あつた。萌、云、士、夫、士、們、の、情、地、の、美、を、傳、へ、し、代、四
 郎、が、妻、も、媳、婦、も、胸、安、さ、る、と、あつた。あつた。秘、し、り、よ、と、情、を、穿、不、仰、示、さ、せ、し、萌、首、い、ら、る、果、て

儀の如く計ひ代四郎の法度犯して及て違法の祟多く義成主の代四郎が老て且健る今番も
 京師へ後事の加役と幾奇特と思召しよる折るゆゑ然道節小文吾們信乃毛野莊介現
 八大角の件の内意と兼りて誰か感佩せざる大家俱ひいけり。今もや西君侯の仁心慈母の
 勝りぬる徳君の如く事ある折命と捨去報恩謝徳不足ざるべしと稱を願て音音們の
 件のよしと報知され音音はる東主軍節も感涙坐す吐き俱ふ君野の方に向ひて伏拜と又伏あ
 む終の涯りあつり當下音音の道節と小文吾們の談きや大江の大母御の親兵衛主が代四郎と
 船もうち乗せそと終京師へ伴ひおとせさぐい之実事るる怠慢の罪をばやと思ひ過ら額之病
 までおきもあそ在走那御仁慈の秘事を大江の刀自の知事ともけしうあはれ侍とて同の道
 節少もあそ井を勿論のふかき告安心せよと許共音音はるゆゑ昔の方も妙真の宿野の
 赴對面して件の首尾を箇様々々其示世妙真も真を轉せ終に夢とてその故馬もせよ
 思ひたる西館の天地はと御恩と且感下且仰傍折も倒脆は老女涙之案下再説介

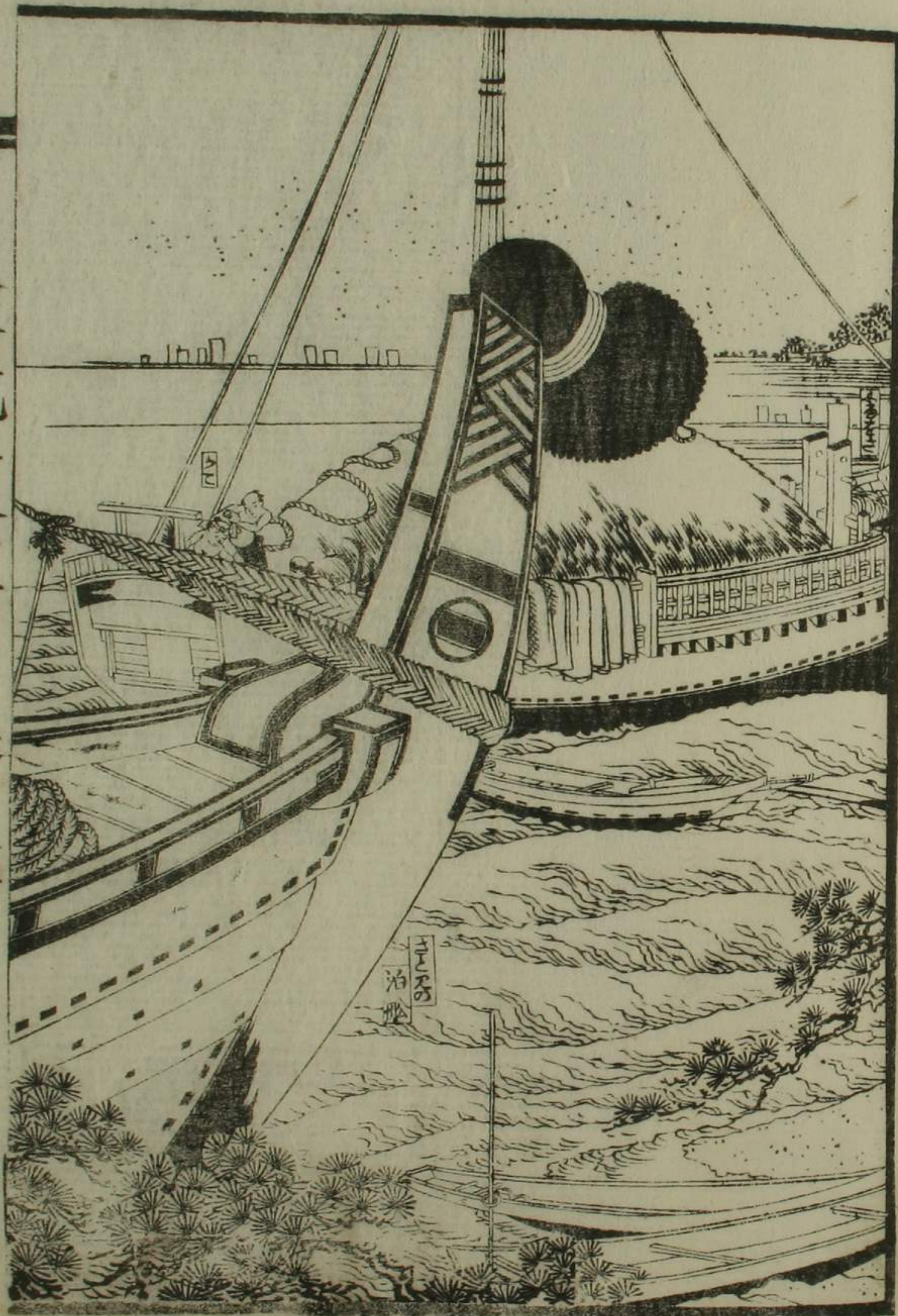
程大江親兵衛們が乗る巨船の下田の港一々歌りて又西三日の程遠江灘をうり過て三河の
 洋を走る折風両極可吹暴れて危なりは管上花師們相罵り力と勅し兩押せ船と奇子
 崎の河小敷は任りゆふの時七月下旬なれ朝夕冷熱定ゆる遂に連雲林ありし船と遺る
 便着るる一人のみ旅泊の徒然の堪も道異伊勢志摩の商船の東海へ赴折必船歌き
 港口るれ廿日泊船難るるぞとて馬頭上十餘許の間土妓遊女と昔とせ客店あり
 る酒肆餅師種々の經紀見輻湊なりふ應仁以降諸國の蝸角蠻蜀の閉戦間折る
 くて兵乱一箇年あり程名邑都會も荒果て狐兔の栖ふる所稀に然に這奇子崎も
 昔も似も錨を伯も船もなれ港口の町跡も今も統一統は五六箇の延更兒の逢屋を
 日と暮れて這里風とや客船中酒と活餅を買ま欲先陸に登りて路遙る西原奥
 郡もゆくゆくも求めるとはるの傳の世やあれは折奇子崎の鏡描と宿と雲存致
 等も船と親兵衛們を除くの外二十石許の一艘の運艦這港口不在の空の鳥飛来石の

浪舟水際の松の敷糸ねらち奇き波濤揺動の眼を奪り雲と水音響る者松
濤の外火絶て慰むるは親兵衛の伴當夫役のハハ高工們も俱徒然と難
非如幾町ありとも奥郡未赴して酒を餅を買て来て志ある者ハ錢をかせと云るを親
兵衛守てその事を許さず今もあれ頃風を這里に在る船を益るは口腹を會して那里に
いると云るや一個も離散せざと詞繁く誠れ代四郎紀三六あるは皆高工夫役を制め
か大家望と失ひて但勤々と咳けり徳而も次の日の亭午時候も天を曇る雲丹も秋暑
益可潮水と前て大洋此の波濤もるれば高工柁師們皆飲んで今宵我羽立の豆用必追
風を吹つべと櫓と推建帆細と執て用船の準備を去る程奇像も一個の武士頭粉鏡
余の戦笠を戴て身も緑線の麻衣蕉布の野袴穿て紅袴の両刀と跨る右も白銀半
握持て親兵衛を西五名従へて馬頭上も立在て其首を歌り船毎ハ是那團の經紀見せ
仔細を指示し多く直せと喚り看官反て訝り向這武士是誰もや開る復下の面解る心

第百十五回

客船と哄して水寛鬼酒と沽る
波底に没きて海龍王仁を刺んとす

却説那武士水際不立て聲高き喚り向ハ泊船の内より船公多一個の漢子遽
逢を撥抗てぬ船も跪て件の武士も答るや是ハ伊勢の鳥羽より鎌倉積送の商舟
何れの御要と回復と件の武士も答る若們の知事近曾海賊這荒湊の船と寄せ
便宜と張ひ夜艾の渡海の船も渡り任り敷く脅へ人を屠る資財と奪ふ不良の風聲紛
れ是ハ我君侯當國與郡の一城王鄰尾判官伊近殿の仰を奉り田原片瀬大津より山
田宇津江中山苛子の諸浦と檢麻牛で那賊船も穿敷者也徳ハ我の緝捕の頭人鄰尾
殿の御内も然る兵ありと知れる設良四九三郎被丑是ハ若們稟ま差錯るハ先々船
展檢ん乗隊ハ乍廢幾名ぞと向ハ答て然ハ擔主船公高師方位師共十餘名いり
舳擔ハ則地方の名物塩藏の鯨肉二百樽海鮫油二百樽打鯨絲裙帶菜海藻も



奇子崎
 小島
 四九郎
 客
 船
 主



四九郎

くいのと四九二郎の水際の扁舟うち乗れぬ親兵も都て従ふ中一個の置敷を解
て漕船の件の高舟の邊へ寄れぬ四九二郎も櫓を馳せて乗移りて従親兵四名中
知と舳櫓を展検るふそのうら小喧合々疑ふもあつた大緊檢して點頭好
好若們的障りも幾れ隨意船をせよと言示し又故扁舟うち乗り杆を操して更
又大江親兵衛の船の舳前漕着きて若們的な麼那裏の船を同へ紀二六あつて舳
頭不立ちうち向ひて是安房の稻村も浪花へ赴く武家の船も殊多ふのを報を四
九二郎の安房の稻村といへば原來里見の家臣も非除誰殿の船もあれ水路
も他領も犯して遙けた浪花へ赴く其地々の城主地頭も通達して路を借
りて該るふその美るる艦心も私の向合も王君並に咱們の姓名所役の言はれ
え這船中の人数舳櫓の多寡東西檢入案内せよと權威を示して言向する聲
苛めく鐵猫の綱を携へ船も乗移れ親兵も續いて船廳へ稱入らせ程代四郎も立

いで制ても半毛置ると役義を安ん理不盡る言果へうもあつた親兵衛と照文の只得
親兵を従へて出づ俱に後倉不在の登時照文四九二郎うち向ひて人々且鎮り酒家の
安房の里見の家臣登崎土郎照文と喚做る者でいへ今番所要の美も浪花へ赴く渡
海の船風雨不縁て這港に權且鐵猫見を宿るの疑を發者あつたと各生る所を
四九二郎の眼も瞪り聲苛立て非如里見の家臣でも戰國割据の世に生れて逆旅の常例
あると知れぬ前中のいひとをうら外に藩の陪臣封疆と踰て遠く他郷へ赴く其地々を領する
路を借るを該るふその美るる艦心も私の向合も王君並に咱們の姓名所役の言はれ
友のともんや海賊緝捕の君命を禀て點檢せよと我が名刺の罪免れを今賣回不行
裏も皆啓して虚実を知り其里退去と皇來中刀の反打ち十も抗て諫を親兵衛冷然と
出て四九二郎も打向ひて噫咻や和主誰と問せも果て疾視て原來這奴を採惚と奮ふ
具名告ぐる我が當國渥美の郡領鄰尾判官伊近主の兵頭設良四九二郎緩むるを

忘れぬ龍見の後、病者おれざるも乳臭耗り小猴子の敵も不足の退治を敷、
 父暴く罵れども親兵衛謙々氣色も噫物も自負廣言和主も武家仕合、武士の
 作法は知りん今や割橋の世も懸驛山川海濱皆官道なれば約莫舟車の通ふ処往
 々と何人もあるも里あえやあられも諸侯を遠く御怒敵あて攻撃す欲ま時
 間の主告路と借る軍兵を遣ふ先例あり是戦國の作法も咱們然類あはる今
 船中不在人の教主僕都て九十許各舟も大半は篙工柁師と行擔小隸も夫役の僅小二
 領の甲冑と二條の鎧とそれら前鐵砲の長兵神器と一箇載せれば非如陸路と走ると人の
 疑ひある況渡海の船中七四五日鐵猫を宿る各舟船搭解人となりあるや和
 主咱們を誰ぞ思ふ安房の罪も各舟の大士隨一人大江親兵衛仁を知て少年も悔
 りふ不盡の受不及れ敵も本事業とと頼竹復一の勢も猛く臂近る目録を
 ら坂上を両手拭て眉上高く振抗れ驚慌る四九二郎隊の兵毎も共侶も憶も摸地上跪か
 して

戦れるも抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて抗つて
 けの登時設良四九二郎の折下も胸を稍鎮も恭親兵衛の名向額を極て人々も足あ
 づりの鬼神不測の君も力抜均五郎も名をそれ入り宴今日仰の趣理の當然のみも争何
 せ在下の這津多海賊も穿ぬる糾も職役も不這船も何の事ぞ知ると原も事多閑多罪者
 へも願へ上陸做りぬる奥郡も寡君の城光臨也怒るとり告きせぬ在下の職役
 ともなく口説後方跪坐隊兵多々も願請之已も親兵衛執り所々照
 文とてて番崎主事れも那談も思ひあへる請ても影護も怯れも思ひ酒家
 ゆくは諒れも正使もやり一霎時の船と離れぬ和殿の妹雪共侶も兵伴當を従へこの
 人々と案内や件の城赴て箇様も生口も倒小後安んぬる照文黙頭て義の
 愚意も相同左も右も追風ゆき又且消く這処も為義も信も在る非如二更れ

三重を歩むが及て保養のききむら。趣理のありてそいれん。代四郎の一言及之諾
るて身装しくん。當下親兵衛又のち時宜宣定時宜も王客の勢同く。神龍
靈龜の自在も。浸水と離る。蟻蝦の為の苦ゆる。況今の世の人心。裏方と藏。非常の
備も。困る。後悔其首不達。か。難色。夫役も。我我。伴當。俱。船。橋。へ。情
語。示。照。文。答。并。故。た。か。わ。ね。も。勢。反。て。疑。れ。平。中。下。代。四。郎。首。と。注。し。共。信。の
四。九。二。郎。小。ち。向。ひ。て。所。望。不。儘。上。我。們。王。供。領。王。御。館。へ。ま。へ。一。葉。舟。を。漕。ぎ。ま。わ。ら。れ。て
四。九。二。郎。怡。悦。堪。も。然。ふ。見。伴。仕。ん。い。ま。を。久。と。期。と。推。し。馳。て。扁。舟。不。乗。得。れ。が。従。小。隊
兵。四。五。名。の。中。小。兩。個。杆。と。操。り。水。際。の。返。り。小。程。は。這。方。の。高。工。們。八。渡。尾。の。夏。身。纏。を
解。緩。ゆ。そ。と。接。搭。不。艇。板。那。這。架。渡。其。照。文。之。代。四。郎。紀。天。以。下。の。伴。當。と。野。共。十。名。と
從。て。船。を。出。て。艇。板。の。傍。に。濱。邊。不。赴。程。小。宰。領。夫。役。高。工。們。之。比。皆。徒。然。不。堪。な。れ。差
志。は。散。動。り。て。指。揮。と。も。照。文。の。後。跟。り。出。て。中。親。兵。衛。喚。由。制。渡。照。文。們。去。向。の

安危の心許る思へ。既に七船に在る者。残の寡く。一時親兵衛やと。鼓算と被て。若們然
まふ自由を。今い。程。る。感。這。船。と。ち。捨。て。い。ま。我。以。が。や。小。漫。は。そ。と。空。若。は。と
宰。領。夫。役。船。公。高。工。出。後。れ。る。者。二。十。餘。名。の。一。言。不。加。存。り。て。少。の。中。を。味。は。り。小。程。小
時。程。未。の。刻。過。が。浦。風。情。横。目。刺。ま。秋。の。暑。熱。の。身。纏。多。推。禁。れ。高。工。夫。役。の。銷。し
難。今。日。の。只。人。を。恨。も。身。を。不。娯。て。待。回。り。久。方。書。寐。の。枕。徒。起。て。坐。る。越。捨。山。の。月。形
ら。く。小。尉。の。う。あ。る。中。倉。の。方。指。さ。て。親。兵。衛。情。地。お。説。き。も。ま。り。り。傳。折。り。忽。然。一
葉。の。扁。舟。漕。ぎ。浮。れ。浦。邊。迄。不。未。留。め。これ。は。是。別。船。を。漕。ぎ。這。寺。子。の。泊。船。或。は。釣。を
警。家。舟。の。煎。茶。醴。濁。酒。を。好。む。儘。と。賣。り。と。の。并。が。船。梢。尖。件。々。寫。着。る。短。敷。水。の
是。則。招。牌。へ。船。を。操。り。東。西。と。賣。り。兩。個。の。漢。子。船。不。在。の。妙。音。高。く。吸。る。を。御。存
知。下。頓。酒。屋。上。五。郎。で。い。ぞ。睡。覚。の。中。盧。達。茶。助。飲。身。困。子。の。樽。酒。又。一。夜。釀。の。大。白。醴。却。又
上。頓。の。客。人。虫。須。師。の。茶。葉。非。澆。酒。御。請。史。章。魚。の。脚。身。刺。給。も。い。ぞ。召。れ。と。言。復

去の這方の船漕近々狭き程の高工夫役們的飲んで一向長森之東西賣る船の夢を
 了すの多き今日偶然の日和まれ叶好東西來するの飲食體上頓濁酒中より
 父も母も勢ひ満るる中雨二個の高工夫役も堂々鳴りて連り舟の船を親
 兵衛らちて遠く後倉を出て衆人を制体する若們もど大胆なる四圍九州の港口海
 賊折々毒菓も泊船客を酔倒し金銀船擔を中へ涯り奪奪ると風聲あり
 去るが後最不覺之鳥計之叱れ高工們的跪て并仰ぐいも現石を少不良の毎も
 ひる浪華津より這方來ても及ぶ一日易き高泊船の徒然人我の堪る折々僕
 一碗の酒は沽き喫も各身錢を兼買する刀祿們も之票を最憚りるべき波の上あり
 我若們もそと知れらるる肉のねと解く親無頼冷笑て我私多と云ふ哉若們も日不子
 飯飽を喫も余粟餘食を食て危は近く我回客を饒をも風情の檢し折
 船中の進退我若們も及ぶも事仕位利害を知用心いふ若們我及ぶ各心と思惟よ

昔の似ぬ這荒濤の駭り一船二艘の懸那舟經紀が遙々漕りて來身も何なる錢の
 人は疑ふる多き感又那經紀の宿錨の客船を賣るの澳の釣る蟹家舟也日毎
 買すも勘をきといふの都會敏茶花の海濱を樂ませる釣舟の酒を沽茶と求
 錢を使ふも然遊自中のみ生活する漁者好茶と求め酒館の錢を費すあり
 人も這を思ひ那を思ひ買すも事と事と推禁めて饒去るも高工夫役們的今
 ら亦復望を失して俱親兵衛を恨め勢ひ争ふも金銀面を注し齊一嘆息あり
 當下舟の船經紀の既漕りて酒の沽は親兵衛が利害を論して衆人を制ると知
 して腹を立て争ふも蓋しと思ひけかかるる艘と令直して漕去ると程前近那一艘の
 泊船も高工毎が及ぶと喚きて擔主圍船皆共侶も茶碗と中來て或醴濁酒或
 前茶茶粉團と已が自然好ま儘て買すも船經紀の頭を掉て左右賣る否
 剛才那黒船を引れよと听ゆるや咱們的酒を毒菓中て人を酔倒さるる酒を

多飲食れ光景とそれ誰か疑ふにあらねばとていふも賣りねくとも勸解れ舟經紀の
 船と輕めて信らるれ恨も一賣り思へどいふせし那里と皆賣儘して露をうらむる
 其餘の濁酒と醴と爲二桶の貯あれども是外の宿船約束せられたり今日縁
 縁多と推辭む高工の宿の折りたる有ら思ひ絶もせ外約束せられも
 價を増し買われかむくと亭と打合され夫役們も詞齊くも陪話して東西の意欲が
 各口お孝の雪の筒水の底の鯉るる水冤鬼の柄杓をこふも信ちあえ放つてもあ
 舟經紀の幾も強顔の言果しをなす舟を漕せよとの東人達実不這個
 酒の外も約束あれも回甘の與る外へ明見りて望儘一まろ濁酒飲醴飲茶
 碗を出しぬとゆれて大家共侶心と答て笑ひ木椀茶碗船架より前後と争ひ合は
 高天や入舵師船公夫役率領伴當も皆船後におく来て蠟兒の甘附像く冷
 醴濁酒已が隨意求めりて俱他念るるける登時大江伴若黨の両箇の茶碗醴

と濁酒と汲合せと金うち載せ中倉より来て親兵衛は萬も中へ陳物の口口稱ふも
 旅やあれ話柄もさうもいふ卒快食れかよへ親兵衛微笑し汝が孝順辱し今日
 猛可洋日照して秋の暑熱の堪えられ濁酒も醴も避暑の茶をいけ開け且這里小酌
 して汝もさう喫まるといれて件の若黨の飲ひ兼て船後におく来て飲食ふ人まけは二
 桶とゆえ醴濁酒の残り買くらふけり有徳一程親兵衛の身邊に措け醴の冷茶
 碗を合抗て喫試んとする折怪し下懐る仁字の玉王あぐろ護身囊と脱出て巻と托地と
 棧へ親兵衛吐きささるる憶茶碗を合隊せ醴膝小散流れ傷ま在ける濁酒の茶碗不
 茶碗うち中も俱粉塵ふるり然も親兵衛慌て謀先玉王を合抗て額を推當ら念に
 護身囊復し入れて懐小楚と夾め然而も巾も醴と濁酒も那這とて拭去らぬ玉王奇
 特を顯して今喫ませ醴の茶碗と俱濁酒さうも翻させあひの問も是我姫神の冥助
 少這醴も濁酒も毒ある故をあらん企て前面を泊船と舟經紀の哄騙の同類不良の

枝りて世を渡る奸賊身を知り足れ始りて我をうらやま疑ひあきさる心届く底深く謀り
 たりん悔いさよ然るをも我衆人の安危誰何とち吾船の方大船公高工舵師夫役雑色
 伴當甲乙都て二下餘名或體濁酒二碗三碗喫ぬる錢をせと還生あり茶碗に残る體を
 指りてとせりち仰て啜りて茶を乞ふあり程大家猛眼と睜り俱に嘔る口中より流る涙泉の
 ぞ齊き撞と仰反仆れて死活も知ざるけり親兵衛を是を觀て今赦末暇る且海賊們が
 多と如きをせせぬあふと尋思と考共侶は酔倒れる面色を脚を伸ら中倉を柱背に凭
 るて両手を張て仰反り當下一個舟經紀の衣領を夾一叫子と食わて吹鳴其泊船を撞
 板て頭れ身強人毎甲乙約莫十餘名錨綱を解架して船と這方漕きけ開か中頭領が
 一個の老賊も角弓と携り舟經紀打扮る兩個の小嘍囉も向て豫謀合せとぞ這
 個船の安房の里見が京師遣使使舟數千両の金銀を載りしと知りし後と眼を左右
 中謀りて既小徳十二分を造化は皆若們が挿足も那猴子奴の羊小似ける才蘭て替力も

亦凡庸をねがはる敵もあつた倘那奴のそ人柄を作と飲食を射て倒れと思ひ小那奴
 漏れ去像の如く酔倒れる首尾妙之快航担と運扱よとられて兩個の小嘍囉鼻鼻蠢めり合
 笑て然之那後生奴始り疑て事成るもあつた辛くも段と旋りて稍這田地の遠島大功の
 誰れも譲るべしと分賊の心と割りてさるが卒然と先馳て大家續々と誇自重見の船
 乗程は自餘の海賊十餘名身を跳ら推續く船臥る高工夫役們を蹂躪せし知ぬ金
 必中倉の船底をさわむせぬと罵と齊く綱を船廳を親兵衛岸破と身と起と耳と
 貫て聲高き小這盜兒們何素ある下司と鈍く謀られれると仁と倒りて天四訓思ひ知せんと罵
 る勢に四下と拂て背より組む小嘍囉兩個を左右小掖肩被せやと聲を投り於腰骨打折え
 云とたり小平張るも那兩個の假經紀も一個の水鬼鬼柄杓九郎又一個の灘渡破船と嘔做る火
 家の小頭領之け衆賊齊一胆と淡と原來那奴醒る後非如萬夫の勇ありとも一個の敵を怯れ
 るも勢と瀧と歩場と揣りて短鎗長杆朴刀六七尺の細楫を振内りて撃を競ふ親兵

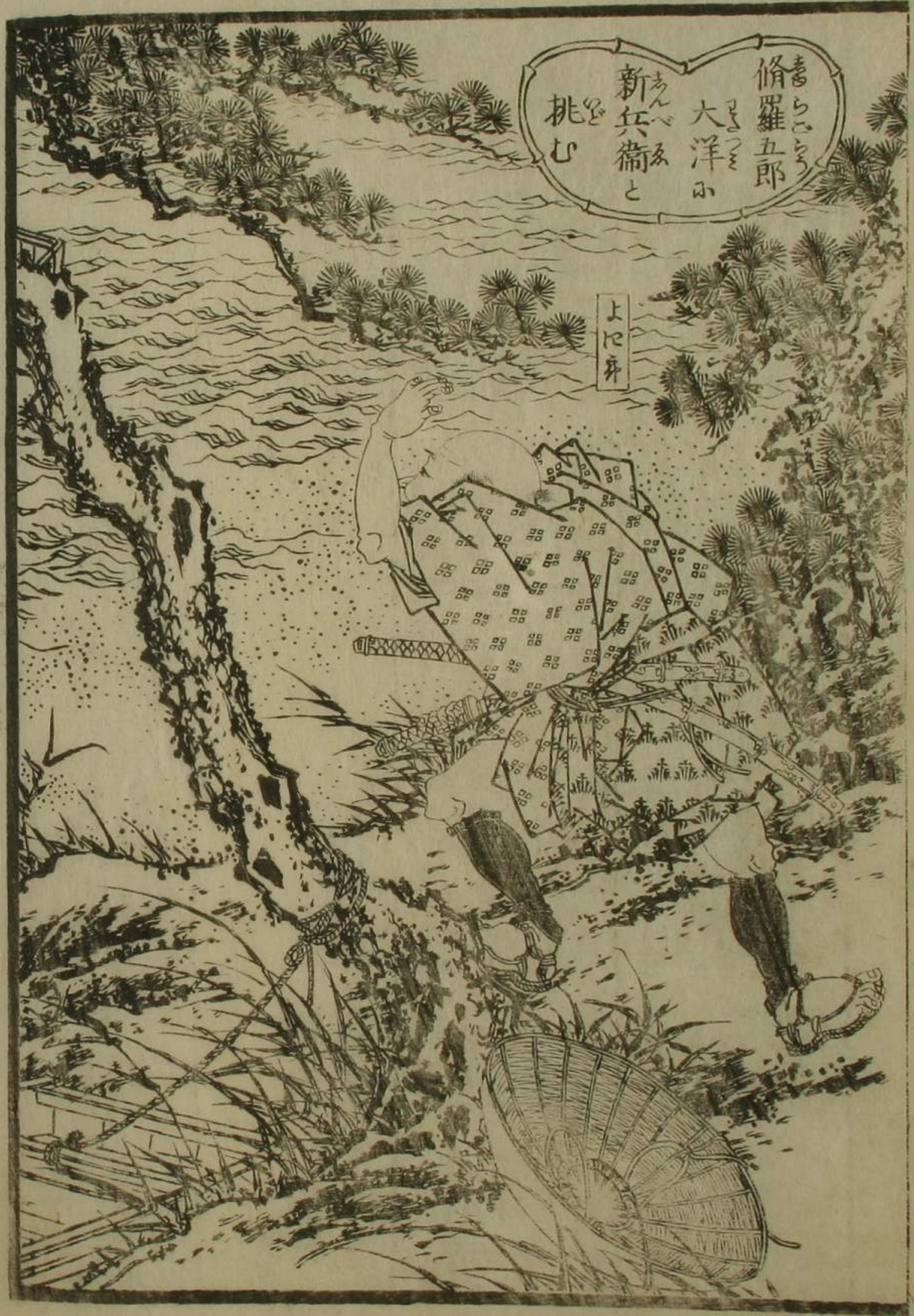
衛撓まき一個賊徒の楫を奪て其難什を修煉の剽姚逆前する。或矢庭不撻什され或洋一
 放下されい出頭をち摧れ。免る者る有り程小頭領とかが一箇賊既し其
 小嘍囉們親兵衛とら儘一を隙小逸早。那身船底潜入之空網出金一箱と臆腹
 抱えて出て來る。船頭小立身と跳らして己が扁舟を棄て。船を推建て逃んと其親兵衛憶
 ぎを其奴等と刀と抹て帶り。船頭小趕蒐し及ぶる二間許水と隔一件の扁舟向ら
 乘る飛鳥の勢に在昔八嶋の閉戦の船八艘と蜚踰る源九郎判官も徳を思武術の精妙
 驚馬に慌る老賊の只得船と棄相逆て臆腕捉てまゝと組む。親兵衛謀を脱と振解帶
 扱て横さる。探倒えと角へも他も亦本事も剛力を雙拳敵され左右多探も倒され全身珠
 成を汗を流と命と涯の挿あけの故ある。這老賊の海龍王脩羅五郎と喚做る。原是築石の
 海賊也。武勇の伊豫の純友も弟と做るとはさへ。椽力の金山左衛門も必之舎と避るる
 然四國の諸浦を今純友查勘太と喚做る。巨盜と共侶小嘍囉二百名と相聚合四國九

則を横行く或は御の豪民富商と脅。又あるは渡海の商旅不禍と船と沈め貨を奪
 猶も船中人多弓箭鎗砲の武備あり。敵かは遇下時宿計を舟經紀を偽中して哄誘し
 陀々花と喚做る毒と喫して。其人々を昏倒して所従の貨財と奪略を。今日親兵衛們が船の如
 此の事那地隠れられ西海山陽西道の城主探題と緝捕の軍兵遣て。その果破る想
 断け。誅伐限も有り。脩羅五郎查勘太の折下の小嘍囉と大なるを討捕られ。残黨
 と俱命を免れ船と伊豆相摸る。海濱の寄艀に。姑且便宜と現る。舟相従小嘍囉七八
 十名を有り。有り程脩羅五郎查勘太。今番里見の使者大江親兵衛仁們の京師へ赴
 く渡海の船に金銀多あり。いふく少知り足跡と跟り。苛子崎の件陀々花の主要をのり
 討りて。茲不及を生拘れ。小嘍囉の招り。後小嘍囉。問話休題。今程は
 大江親兵衛の件。扁舟趕稠。海龍王脩羅五郎。只一扱捉拘を思。梅り。小嘍囉他
 剛勇。勅力。寄本。事あり。果敢る。組も伏せ。然も親兵衛も克究敵をる。



八尺舟

廿四



喜らじょう
脩羅五郎
大洋の
新兵衛と
挑む心

よに舟

八尺舟

廿四

他^れの^年末^船と^りて^家の^做る^海賊^を、^半伊^の底^中出^没さ^る。水路^の掙^は自由^又親^兵衛^の六
 槍^以來^太山^の成^長り^一く^水虫^孰れ^船中^の掙^は自由^とて^克と^取る^と易^とぬ^言も^控
 せ^挑む^隨ふ^船の^揺動^を傾^て踏^脚一^要時^も定^まる^竟ふ^扁舟^と踏^覆く^組さ^る儘^甲ひ
 俱^小海^水と^隊を^シり^然る^をあ^れ親^兵衛^の船^の内^を陸^不似^進退^不如^意を^行ふ^敵の^水中^の
 掙^は自由^のゆ^えに^這老^海賊^が及^ぶる^ゆえ^に脩^羅五^郎の^折す^二分^の力^を得^る。右^の拳^を掙^き
 腰^不帶^す短^刀と^拔半^逆の^合て^親兵^衛が^脇肚^と刺^串んと^しけ^を親^兵衛^を其^の首^を
 左^の小^杖と^捉禁^{して}刃^を奪^會す^る者^も先^も水^中に^氣身^も稍^疲れ^て表^さる^ると^から^りぬ^ゆえ^に
 脩^羅五^郎の^親兵^衛と^水底^へ推^沈め^推溺^らせ^て捉^られ^腕を^解んと^す。親^兵衛^が身^の
 飄^の像^を被^れた^れる^波上^に浮^出て^のま^りひ^れ幸^ひふ^と死^さす^の。正^一期^の大^厄難^最も^危
 快^親兵^衛の^報す^思ひ^て獨^先と^かり^来り^け。奇^子崎^の馬^頭と^され^れ岸^を距^ると^三所^許滄

滄^を洋^中に^親兵^衛の^一個^の大^漢と^送捉^さる^も放^さる^浮沈^を争^ふ光^景相^ある^危に^生
 滅^の海^面前^に呼^吸不^在の^代四^郎吐^嗟と^救駕^にて^水際^に敷^きだ^蟻家^舟の^間を^乘り^楫拔^會
 して^水と^極多^漕き^本事^の船^を世^と渡^り身^昔の^修煉^衰を^瞬息^間に^漕着^て解^解
 袴^と衣^さも^舟の^脱捨^て只^脇挿^の短^刀と^膺鼻^禪の^踏を^折忽^地聲^を鳴^りて^{大江}王
 大江^王四^郎助^劍仕^るも^も緩^{ゆる}る^と吸^ひさ^る身^を跳^らし^海水^と蜚^入て^表さ^る敵^の
 後^方の^洞に^寄る^と脩^羅五^郎の^左右^の脚^を掙^と寄^せと^連り^不離^返と^代四^郎の^めも^せを
 片^脚を^捉引^き右^の短^刀を^持て^九の^命の^邊を^馬熟^と刺^を刺^れて^弱敵^の頭^髪と^左の^手
 扼^を仰^反と^首と^并捕^れ海^水忽^地韓^紅の^波の^揺々^權具^錦を^流き^似り^けり^登時^又
 代^四郎^の親^兵衛^を扶^け洞^へ還^流れ^蟻家^舟と^趕住^りて^脩羅^五郎^の首^を船^に投^入れ^て然^心
 而^親兵^衛を^水中^に拾^らる^共侶^のを^舟を^乘り^おけ^る。介^程の^親兵^衛の^思ひ^に代^四郎^の
 幫助^の勁^敵と^深く^勢身^の恙^を代^四郎^も向^ひて^雙今^水中^の掙^は自由^の齡^七旬^の程^遠く

は老兵と思れ。咱們の御座箇様々々。恁々の情由有て衆人都て毒酒。小され。刺の老賊。金一箱。竊れ。透さ。扁舟。好細。挑む勢。小舟覆りて。俱水中。隊半。我。酒法。疎け。首級を引き。這奴。為小。苦。め。れ。僅。那。捉。林。我。身。刃。受。さ。る。実。か。見。樹。ま。り。か。も。幸。小。潮。水。吞。ま。身。亦。屢。浮。折。を。申。極。れ。必。是。伏。姫。上。の。神。祐。擁。護。あ。ん。ん。ん。傳。幸。有。る。老。賊。空。竊。て。走。り。那。一。相。の。金。舟。復。り。海。論。加。旃。我。腰。刀。小。月。形。老。侯。の。賜。の。多。開。水。中。小。送。今。腰。残。多。這。個。短。刀。の。恰。と。云。恰。一。期。の。不。覺。怒。活。甲。斐。亮。罪。重。り。小。未。容。臍。と。噬。悔。八。千。遍。百。千。左。さ。右。さ。思。へ。も。思。ひ。難。る。稠。の。難。義。嘆。息。の。外。多。り。代。四。郎。听。け。慰。め。て。開。安。ら。ぬ。多。せ。ぬ。樹。の。と。誇。貌。舳。頭。小。立。て。眺。且。東。西。復。り。言。那。扁。舟。の。流。れ。故。の。外。在。り。代。四。郎。見。好。々。獨。語。身。を。跳。り。て。二。三。海。入。り。安。危。を。後。甚。麼。を。亦。復。下。の。果。鮮。分。と。聽。ね。か。

南總里見八犬傳第九輯卷之二十二終

